



気を緩めずに 新しい生活様式を 習慣化しよう

新型コロナウイルス感染症は、**誰もが感染するリスク、誰にでも感染させるリスク**があります。

緊急事態宣言は解除されましたが、新型コロナウイルスとの戦いは終わったわけではありません。ウイルスは、目に見えないだけで私たちの周りに存在していることを忘れないでください。感染するかもしれないという恐怖と緊張がしばらく続くかもしれませんが、ウイルスに感染しにくい生活様式に早く慣れ、感染予防に努めながらストレスをためない生活をめざしましょう。



新型コロナウイルスから身を守るイメージを可視化したもので、完全にブロックできるというものではありません。一人ひとりが感染予防に努めることをお願いします。

6月になり、高温多湿の時期がやってきます。エアコンなどを使って熱中症対策なども行いながら、密閉を避けることも必要です。今回は、厚生労働省発行の感染症対策の一部を掲載しますので、よく読んで参考にしてください。

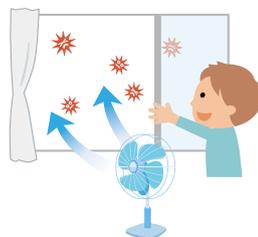
新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をおねがいします

①「密閉」空間にしないよう、こまめな換気を!

「部屋が広ければ大丈夫」、「狭い部屋は危険」というものではありません。カギは「換気の程度」です。WHOも、空気感染を起こす「結核・はしかの拡散」と「換気回数の少なさ」の関連を認めています。

窓がある場合

- ・ 風の流れることができるよう、**2方向の窓を、1回、数分間程度、全開**にしましょう。換気回数は**毎時2回以上**確保しましょう。
- ・ 窓が1つしかない場合でも、入口のドアを開ければ、窓とドアの間に空気が流れます。扇風機や換気扇を併用したり工夫すれば、換気の効果はさらに上がります。



機械換気がある場合

- ・ 窓がない施設でも、建物の施設管理者は、法令により感染症を防止するために合理的な換気量を保つような維持管理に努めるよう定められています。
(注)ビル管理法により、不特定多数の方が利用する施設では、空気環境の調整により、一人当たり換気量(毎時約30m³)を確保するよう努めなければなりません。
- ・ したがって、地下や窓のない高所の施設であっても、換気設備(業務用エアコン等)によって換気されていることが通常のため、過剰に心配することはありません。
- ・ しかし油断は禁物です。換気量をさらに増やすことは予防に有効です。冷暖房効率は悪くなりますが、窓やドアを開けたり、換気設備の外気取入れ量を増やしましょう。また、一部屋当たりの人数を減らしましょう。
- ・ 通常の家用的エアコンは、空気を循環させるだけで、換気を行っていません。別途、換気を確保してください。また、一般的な空気清浄機は、通過する空気量が換気量に比べて少ないことから、新型コロナウイルス対策への効果は不明です。

乗り物の場合

- ・ 乗用車やトラックなどのエアコンでは、「内気循環モード」ではなく「**外気モード**」にしましょう。
- ・ 電車やバス等の公共交通機関でも、**窓開け**に協力しましょう。



首相官邸
Prime Minister's Office of Japan



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

厚生労働省フリーダイヤル

厚労省 コロナ

検索

0120-565653

